- 1) 造影検査について;ヨード造影剤という薬を静脈注射しながら行う検査です。造影剤を使用することで、 異常の有無や、病変の性状、範囲など詳しく抽出することができ、より正確な診断を行うことができます。
- 2) 副作用について;近年の造影剤は改良され、副作用が出る頻度は低下し、その程度もより軽度になってきています。しかし体に合わず、副作用がでることがあります。<u>その殆どは、軽症</u>で検査直後(1時間以内)から症状が出る場合が大半で、稀に24時間以上経過してから症状がでる場合もあります。
  - ①軽症:かゆみ、嘔吐、蕁麻疹、紅潮、鼻汁、くしゃみ、のどの違和感など(約100人に1人)
  - ②重症:血圧低下、息苦しさ、意識消失(約1万人に1人)

問診の結果、造影剤使用可能と考え、検査依頼いたします。依頼医師署名

③最重症:極めて稀ですが死亡に至った例もあります。(約40万人に1人)

現在、副作用の発生を予知する方法はありません。体質によってヨード造影剤の投与が出来ない場合がありますので、危険性を減らすため、医師が問診をさせていただきます。

3)合併症について;造影剤の注入速度は2~3ml/秒と速い速度で注射します。その際造影剤漏れなどが起こり、 注射部位がはれることがありますが数日で治癒します。はれや痛みなどの症状が強い場合、診察が必要にな る場合があります。

## 問診票(事前にご記入ください。)

1) アレルギー疾患の有無について <u>※喘息は既往も含め禁忌</u> 。その他慎重投与	
□なし □喘息(□治療中 □治療していない) □花粉症 □アトピー	□アレルギー性鼻炎
□食物、薬剤アレルギー(      )  □その他(	)
2) 過去のヨード造影剤の使用歴について	
□なし □CT 造影 □腎盂造影 □血管造影 □その他(	)
その際、副作用はありましたか?	
□なし □あり(症状;	)
3) 腎機能障害について <u>※血清クレアチニン 2.0 以上禁忌、1.2 以上は原則禁忌</u>	
□なし □あり □わからない	
4)活動性の高い甲状腺疾患(機能亢進状態)について <u>※重篤なものは禁忌</u>	
□なし  □あり	
5) <u>その他、禁忌疾患の該当</u> について	
□なし □褐色細胞腫 □多発性骨髄腫 □マクログロブリン血症	
6)薬品使用の該当について	
$\Box$ なし $\Box$ $\beta$ ブロッカー $\Box$ ビグアナイト系糖尿病薬 $\Box$ インターロイキン $2$	2
同意書(事前にご記入ください。)	
私は造影検査を受けるにあたり、検査の必要性や副作用などの危険性について了解しま	<b>きしたので、検査を受ける</b>
ことに同意します。また、副作用や合併症が起こった際の処置を受けることも併せて同年 月 日	司意します。
患者様署名 代理人署名(続柄 )	

母問診票を確認した上で、当院医師の判断で造影検査を取りやめる場合もございますのでご了承下さい。